

まほろば



2017.11
第195号

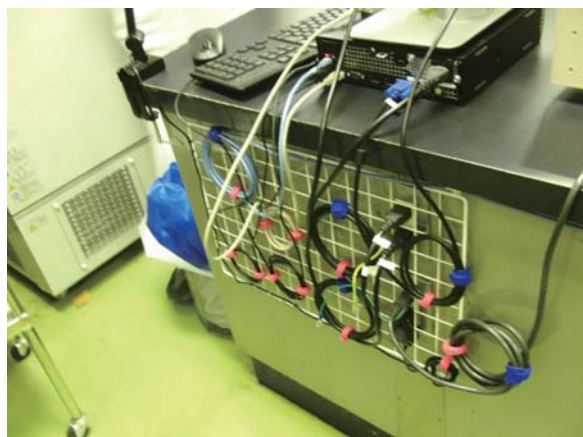
院内感染対策加算地域連携相互ラウンド

感染対策加算1を取得している当院は同じ加算1の病院による感染対策のチェックを受ける必要があり、今回はつがる総合病院によるラウンドを受けました。外来トイレのペーパータオル設置を推奨する、内視鏡室の物品収納庫の設置が望ましいなど費用のかかかるところの指摘もありましたが、細菌検査室など狭いながらも整理整頓しているとの評価や感染対策の工夫も指摘して下さり心強く思いました。ただし物品を輪ゴムで束ねている点が複数指摘されましたので小袋の利用など工夫が求められました。さしあたりトイレのエアータオルはウイルス粒子の飛散があるため撤去の方向です。紙タオルの設置には時間がかかると思いますが、一步一步着実に感染対策をすすめています。これからノロウイルスやインフルエンザの季節を迎えますので、接触感染や飛沫感染予防には更に気をつけて感染拡大を防止できるようご協力いただければ幸いです。

小児科部長：杉本 和彦



病棟のラウンド



整理整頓の高評価を受けた細菌検査室



感染管理体制についての審査



ラウンドの結果報告

ペリネイタル研修

当院母子医療センターは、地域周産期母子医療センターとして年間約 800 件の分娩に携わり、危険な状態にある妊産婦の救急搬送を受け入れることもあります。そのため、全職員の産科領域の知識と技術の向上を目的とし、10 月 5 日（木）母子医療センターにて産科救急についての研修を初めて行いました。産科病棟・外来、手術室、小児科病棟の助産師・看護師 30 名が参加しました。

最初産科専門医の湯澤映医師から、妊産婦死亡 1 位である産科危機的出血の原因別疾患と症例の中から、緊急時の観察のポイント、使用される薬剤についての講義を受講しました。参加者にとっ

て最新の治療等幅広い視野で多くを学ぶ機会となりました。

講義の後には、母体救命のためのシミュレーションを行い、大量出血時の対応について、スタッフの役割と応援体制について、輸血の管理について、チームで医療を行う大切さについてディスカッションすることができました。参加者と知識の共有ができた事はとても貴重な経験になりました。参加者アンケート結果には、「急変した時こそ冷静に素早く役割分担して行動し、患者様を救命したいと思います」との感想があり、研修の手ごたえは個々に刻まれたと感じています。

母子医療センター 助産師：三浦 初枝



湯澤映医師からの講義



急変時のシミュレーションの様子

1 学年(65 回生)誓い式

10 月 31 日、すがすがしい秋晴れの空に見守られながら誓い式が行われました。式では、ナイチンゲールから授かった灯を手に、ナイチンゲール誓詞、誓いの言葉、歌詞に力強いメッセージが込められた、嵐の「果てない空」を合唱し、改めて自らの理想とする看護師になることを誓いました。

まだまだ私たちの技術・知識は、確かなものとは言えません。藤学校長から、分かるということは苦労すること、一つ一つの知識と経験を積み上げていくことが大切でありその為の努力を惜しまないこと、と式辞を頂きました。いつもあたたかく見守ってくださる先生方、誓い式にお越しくださったご来賓の方々、そして保護者の方々に支え

られていることを忘れずに、クラスの目標としている「不撓不屈」の精神のもと、今後、励んでいきます。

一年生：竹浪 菜々子



『消防訓練でリーダー看護師を経験して』

10月16日、5階病棟が出火場所となり、夜間の火災を想定した消防訓練を行いました。私は、リーダー看護師役として現場の避難誘導の指示を出して、夜勤看護師・当直看護師長・事務当直・他病棟応援看護師・官舎居住者と協力し合いながら避難誘導にあたりました。

患者様を安全に避難させるためには、現場のリーダーが応援者に的確な指示を出し、それぞれが協力し合うことが重要です。訓練では、自分の頭の中で考えていることが上手く応援者や模擬患者に伝わらず、焦ってしまって全体が見えなくなるこ

とで避難誘導が滞る場面もありました。消防訓練後の反省会では実際、火災を経験されたことのある事務部長さんから『実際の災害現場ではスタッフも患者もパニックになります。そのような時はまず何よりも冷静になることが一番重要です。一度深呼吸をして頭を整理し、心を落ち着かせることが安全に避難をするために非常に大切なことです。』とアドバイスを頂きました。

災害はいつでも起こり得るということを念頭に置き、今回の経験を活かし、焦ることなく安全な避難誘導ができるようにしていきたいと思います。

5階病棟：工藤 貴文



医事当直室で火災の状況を確認



屋内消火栓による模擬消火

研修医便り

こんにちは。国立弘前病院研修医 1年目の松下景です。早いもので研修医生活も半年が経ちました。

今は呼吸器科で研修しています。呼吸器科は、今まで回った科の中で 1 番患者さんの津軽弁のクセが強い科です。

慣れない業務の中でさらにクセの効いた津軽弁で問診を取ることに初めは戸惑いがありました。しかし 1 ヶ月経った今ではだいぶ理解できるようになりました。私が津軽弁を聞き慣れてきたのか、それとも患者さんの標準語が上手くなってきたのか。

話は変わって、最近医療ドラマにはまっています。今はドクター X とコウノドリを録画して観ています。学生の頃にも仁やコードブルーにはまった時期がありました。仕事を始めてからは、大門先生は頭がよくて手術がうまいけど不潔操作しすぎだとか余計なところまで気にして観るようになりました。来年のコードブルーの映画化が待ち遠しいです。

こここのところ一気に寒くなりましたが、体調に気をつけて研修医生活を送っていききたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

臨床研修医：松下 景



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2017年11月 1 日現在)

診 療 科	区 分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊 本 秀 樹	横 田 貴 志	熊 本 秀 樹	熊 本 秀 樹	熊 本 秀 樹
呼 吸 器 科		中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之
		山 本 勝 丸	下 山 亜矢子	下 山 亜矢子	下 山 亜矢子	下 山 亜矢子
		下 山 亜矢子	森 本 武 史	森 本 武 史	—	森 本 武 史
		森 本 武 史	石 岡 佳 子	—	—	—
消 化 器 ・ 血 液 内 科		松 木 明 彦	佐 竹 立	佐 竹 立	松 木 明 彦	佐 竹 立
		山 口 公 平	山 口 公 平	松 木 明 彦	山 口 公 平	山 口 公 平
		佐 藤 年 信	飯 野 勢	佐 藤 年 信	佐 竹 美 和	佐 藤 年 信
		石 黒 陽	石 黒 陽	飯 野 勢	石 黒 陽	石 黒 陽
小 児 科		杉 本 和 彦	佐 藤 工	佐 藤 啓	佐 藤 工	杉 本 和 彦
		佐 藤 啓	岡 本 剛	弘 野 浩 司	岡 本 剛	弘 野 浩 司
		梅 津 英 典	—	—	—	梅 津 英 典
外 科		柴 田 滋	山 名 大 輔	柴 田 滋	山 名 大 輔	三 上 勝 也
乳 腺 外 科		小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅	櫻 庭 弘 康	小田桐 弘 毅
整 形 外 科	午 前	黒 瀬 理 恵	秋 元 博 之	秋 元 博 之	リウマチ外 来 黒 瀬 理 恵 — 般 外 来 は 休 診	秋 元 博 之
		佐々木 規 博	佐々木 規 博	佐々木 規 博		黒 瀬 理 恵
		飯 尾 浩 平	太 田 聖 也	飯 尾 浩 平		飯 尾 浩 平
	午 後	—	—	—		休 診
脳神経外科		—	—	木 村 正 英	—	—
皮 膚 科	午 前	熊 野 高 行	佐 藤 正 憲	佐 藤 正 憲	熊 野 高 行	熊 野 高 行
		佐 藤 正 憲	熊 野 高 行	熊 野 高 行	佐 藤 正 憲	佐 藤 正 憲
	午 後	● 予 約	● 手術／検査	● 予 約	● 手術／検査	● 予 約
泌 尿 器 科	午 前	大 学 医 師	大 学 医 師	大 学 医 師	大 学 医 師	大 学 医 師
	午 後	検 査	検 査	手 術	検 査	手 術
産 婦 人 科		田 中 加奈子	丹 藤 伴 江	丹 藤 伴 江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	湯 澤 映
		湯 澤 映	淵之上 康 平	田 中 加奈子		松 村 由紀子
眼 科		蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義
耳 鼻 咽 喉 科		西 澤 尚 徳	西 澤 尚 徳	—	西 澤 尚 徳	西 澤 尚 徳
		工 藤 直 美	—	—	—	—
放 射 線 科	診 断	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄
	治 療	—	—	川 口 英 夫 (午 後)	—	川 口 英 夫 (午 後)
女性専用外来		杉 本 菜穂子(※予約制／第 1 ・ 第 3 水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	今 充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

お知らせ

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘 前 病 院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町 1 番地
TEL 0172-32-4311
FAX 0172-33-8614
URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>